

事業計画書（実績書）

令和6年 3月 29日

団体名 あやべ共感コミュニケーション

<p>事業の目的 （何のために行う事業なのかなど、事業の趣旨や目的を記入してください。）</p>	<p>共感的なコミュニケーションを練習し、交流する機会を綾部で増やし、人々を元気にする。共感的なコミュニケーションを使った、より創造的なコラボレーションの機会を増やすことで地域を元気にする。共感コミュニケーションを学び、実践することを通じて、自分自身を、自分の家庭を、職場を、ご近所を、自治会を、そして綾部市、日本、世界を平和にする。</p>
<p>事業の名称</p>	<p>あやべを共感的なコミュニケーション溢れるまちにしよう</p>
<p>事業費 （市補助金）</p>	<p>153,050円 (76,000円)</p>
<p>補助金の使途</p>	<p>講師謝金、会場使用料 等</p>
<p>事業実施期日</p>	<p>令和5年 6月18日 ~ 令和6年 3月27日</p>
<p>事業実施場所</p>	<p>綾部市里山交流研修センター、およびオンライン</p>
<p>事業の概要 （事業の実施方法、内容について記入してください。）</p>	<p>NVC(nonviolent Communication：非暴力コミュニケーション、または共感コミュニケーション)を学ぶワークショップを開催。講師に正木智砂さんを招き、全6回、毎回切り口を変えて実施。自分や他人が本当に大切にしたいこと（ニーズ）に共感することから、自分の中に平和を見出し、相手が本当に大切にしたいこと（ニーズ）を探り、それに共感する練習をワークショップという形で実施した。</p>
<p>補助金の効果(成果) （計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。）</p>	<p>綾部市民が共感的に交流する練習の機会を提供した、これによって心のストレスを減らすことが出来た他、市民同士の交流が生まれ、にぎわいを創出することができた。対立的ではない、共感的なコミュニケーションを増やす練習をすることで、中々解消しない問題に、より創造的な協力方向性を見出すことへ繋がり、有意義な機会を提供できた。家族との対立に悩んでおり、「途中で帰ろうかと思った」と、講義途中の感想で発言した男性は、相手の立場に立ったロールプレイを体験した後で涙を流し「あいつの言うことも、もう少し聞いてやれば良かった。」と、より共感的なコミュニケーションへの手がかりを得ていた。子育て中の女性からは「感謝はスキル。子どもの成長と一緒に感じました」といった感想や、綾部市に移住して2年の女性からは「感情イコール合図、なるほどでした。感謝を伝えるときにどういうニーズが満たされたかを伝えること、参考にしたい」といった感想が得られた。今後は、共感コミュニケーションを推進する街ということを発信し、Uターン、Iターン層にPRしていきたい。</p>

様式第4号（第3条、第7条及び第8条関係）

収支予算書（計算書）

令和6年3月29日

団体名 あやべ共感コミュニケーション

（単位 円）

収入の部		区分	予算額	収入済額	明細
収入の部		市補助金	76,000	76,000	30人×2,000円
		参加費	60,000	60,000	
		ボランティア バンク	0	0	
		自己資金	17,050	17,050	
		合計	153,050	153,050	
支出の部		区分	予算額	支出済額	明細
支出の部		講師謝礼	120,000	120,000	2万円×6回
		講師交通費	29,800	29,800	5,800円×3回 6,200円×2回
		会場費	3,250	3,250	里山ねっとあやべ (5回分)
		文房具費	0	0	
		チラシ・ポスター印刷費	0	0	
		チラシ デザイン費	0	0	
		講師お茶代	0	0	
		郵送費	0	0	
		合計	153,050	153,050	
	差	引	0	0	